解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（12・下）

―― 李性好さんへのインタビュー記録 ――

藤永　壯／高　正子／伊地知紀子／鄭　雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本　拓／高　誠晩

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan from Jeju Island in the Immediate Postwar Period（12）― Part Ⅱ ―

― An Interview with Lee Sungho ―

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

解放，そして４・３（続）

《拷問と抵抗》

李：取り調べはひどいものでした。初めの取り調べは，５名［の捜査員］が［取調室に］入って来て。取り調べられるのは，殴られるよりはまし。「私の夫，私の弟は国を守ろうとしたのだから，こんなことをするあんたたちよりましだ」と，「祖国（ウリナラ）を守ろうと闘うことの何が悪いんだ」と，そう私が怒鳴り声で叫んで出てきた。怒鳴り声で叫んで出てきて，これ［そばにあった長椅子］をパッと投げつけてやったんです。アイゴ，足を痛めて，ああ，死んでしまうと騒ぎ立てたんです。「あなたも殴られてごらん，私も痛いんだから，おまえたちも殴られてみろ」と言って立ち向かったら，「済州島におまえ

平成25年　月　日　原稿受理
大阪産業大学　人間環境学部

のような女が３人でもいたら，私たちは生きて帰れないだろう」と［言われた］。

［捜査員は］西北青年［団出身］だから。取り調べの時には上着を脱いだまま，ぐるぐる歩き回りながら，誰彼となく，みな，癇癪を起こしてぶつぶつ言ってる。だけど私には勝てない。若い時だから，力が強いでしょ。とにかくやたらと楯突くので，続けて取り調べられない。釈放されて私が支署に帰ったでしょう。それを利用して，私が知らん顔して母の家に帰ろうとしたら，良民証⑦－＊8)がないのよ。［そこで］「良民証をもらわないと，帰れないじゃないか」と［要求した］。その時は民保団で［発行した］良民証がないと家に帰れなかったんです。道々にみな歩哨が立っているから。仕方なく良民証を作った，作ってくれた。

［ところが］その［釈放される］前に，「李性好翰林（ハンリム）面女性同盟委員長はあなたでしょう」って［取り調べの担当課長から聞かれた］。「私は委員長の『委』の字も知らないし，私は暴徒が嫌いだから，日本へ行って逃げ回った末に帰ってきたのに，誰がそれを？　密告した人はどんな人物か？」って［尋ねたが，課長は］何も言わずに帰ってしまった。そしてその課長に，その［密告した］金寧（キムニョン）の人が来て耳打ちし，［私を］翰林面南労党の責任者だとひそひそ話をするから，［課長は］私に「申し訳ないが，あなたはもう少しいてください」［と］。「はい，そうですか」。

今度は監獄に入れようとするんです。入れる時，服を全部脱がせようとするでしょ。昔，今は*こんなパンツだけれども，昔はヒモ。ヒモでこうやって引き上げて，*소중기（ソジュンギ）＊17といって，片っぽ空けて，*昔の人はやったんですよ*。うちの母が暑いところで苦労するねと。とてもいいもので，その服［下着］を作ってくれたのに，みな破ってしまった。５人の取調官たちが［下着を破った］。

「あなたたちは，わが朝鮮の礼節を知らないようだ。祖国（ウリナラ）を守ろうと闘う人たちが，どのように闘っているのか知らないけれど，内容を知らないけれど，私は暴徒が嫌いで日本へ行ってきたのに，同胞たちがわざと服を全部脱がせて，ソジュンギまで全部破いてしまうなんて，あなたは朝鮮人じゃないのか」。だから，パンツだけはいて１週間，１週間そこで過ごした。

その時，どんなことがあったかと言うと，私たちは末端の方で過ごしたのだが，陸地から来た人が，*독탁할머니（トクタクハルモニ）*さん＊18［「菩薩（ポサル）」または「占いをする人」の意。本土出身で当時69歳ぐらい］と言って。それは本当の名前ではないけれど，*洙源（スウォン）*ではトクタク婆さんと言って。占いもして，占いじゃなくて踊りもこうやって踊る人。その人が頼んで，*嫁ぎ先（シコ）の伯母（モニ）さん（ムム）*に本を１冊持って来てもらった。高王経＊19という本だけど，仏教で使う高王経。その本を，１冊持ってきたのを２度ほど読んで，すっかり読み切ってしま

った。それを覚えて，そこで勉強して，頭の中で，頭の中で勉強もたくさんして，そんな風に過ごした。

［49年］3月には，そうやって家に帰って捕まったじゃないですか。捕まってから，その時少し寝ついたら，外でトクタク婆さんの話す言葉が舅（シアボジ）の声なの。私が寝ていて，はっと目を覚ましたら，夢だった。

1週間経って，一回取り調べをすると呼び出された。行ってみたら「あなたはただの良民［善良な庶民］として戻ってきた。良民になったのだから，これからは暴徒たちに騙されることなく，良民としてきちんと暮らしなさい」［と言われ，釈放された］。

そうして［さっき言ったように］良民証をつくってくれて［釈放され］たのに，また［告発の］投書が来た。［警察］支署に，支署に投書が来たという。

イム・インオクさんと言って。私たちが初めて組織した時は女盟［女性同盟］*20ではなく，［大林里の］婦人会として組織したんです*21。婦人会として組織したから，その会長という方［イム・インオク］がうちの親戚です，うちの母と。その方が，「以北［朝鮮北部］から渡ってきた人にも良心のある人はいるから」［と紹介してくれた］。以北出身の男性ということだけ聞きましたが，名前は分かりません。体格もよい，しっかりした人でした。その人に頼んで「田舎で［育った］何も知らない子で，捕まったんだけれど，何とかちょっと調べて，うまく言ってもらえないか」と頼んだことがあります。それで，2回目に逮捕された時はその人が，その男性が，私を取り調べようとしているところに，その人が入ってきたんです。入ってきて「西北青年団，お前たちは何をしにやってきたんだ？」。［西北青年団の人びとは］「はい，ただ私は命令を受けて来ました」［と言って］みな逃げてしまった。

《瀕死の夫との再会》

李：だからそのままいれば，ずっとここにいられないから，どこかに避難しなければだめだという時に，うちの夫が［大邱（テグ）で］3日間取り調べを受けて，鉄の鎖でこんなふうに，目もくり抜かれて肉もみな落ちてしまって，手首もガリガリになって［という消息が届いた］。

でも，その夫の兄さんが釜山（プサン）に，その時いたんです。兄さん（シアジュボニム）が釜山にいて，［夫が］死にかけているので，義母（シオモニ）に来るように呼ぶと言ったら，［夫が］お母さん（オモニ）を呼ばずに私を呼べ，と。私を呼んでくれと言うの。

私が当時，［済州市へ］行く時はバスに乗れなかったんです［自由に移動することが

できなかった]。知り合いを通じて，中山［間］村に［行き]，その［2回目の逮捕で助けてくれた］男性に感謝の挨拶をしようと2万ウォンを渡して，移動できるように便宜を図ってくれと言いました。済州市に来ても出港しようとすれば，それなしでは出港できないじゃないですか，良民証がなしには。済州市から後でやって来た。その男性に2万ウォンを渡して良民証，交通証明を受けとり，船の上で1泊して木浦から釜山に行きました。船の上で1泊しましたが，眠りについてから手洗いに行こうとしたら，時計が落ちてしまって。夢［だった]。「ああ，明日にはみんなに会えるんだ」と思いました。

［釜山に］行ってみたら大変なことになっていて。大邱刑務所で［夫が］死にかけているから遺体を持って行けと，そんな通知が来た時に私が行ったの。

［まだ］死んではいないが，自分たち［刑務所］では遺体をどうにもできないから，家族がいれば連れて行けと。［私たちが夫を］連れて来てから［療養のため］どんなところを借りたかというと，次兄（チャグンシアボジ）［申燦翊］の妻，下のお義姉（チャグンヒョンニム）さんね，［彼女が］礼拝堂のような所を借りて，そこで寝泊まりしました。そこで過ごしたけれど，お義姉（チャグンヒョンニム）さんの名前は忘れたよ，今は。

そこで［夫の］面倒を見たけれど，私に，［夫は］自分の状態も知らずに，自分と一緒に日本へ行こうと言うの。兄嫁（ヒョンス）にも，ここにいたら私たちはどこへ行っても死ぬから，日本へ連れて行ってくれと。死のうと思ったのか，頭もおかしくなってきて，勝手に屋根の上にひとりで上がってしまって。そうするうちに，私が行ってから1週間で死んだ。1週間で死んだけれど。

今は全部電気で［死体を］焼くので，よく見られないじゃない。入る時だけ見て。その時までは鉄板にそのまま死体を載せて焼いた。

――火葬のこと？

李：ええ。目に，鼻の穴に，火がぼうぼうと上がるのに，普通だったら我慢できず倒れてしまうところだわ。朝鮮語（ウリマル）にこんなのがあるでしょう。「悲しみが深くないほど涙が出る」。涙の出る余地がありません。こんな世の中なんだ，と思うくらい。

焼いている時に来た人が，大阪の洪（ホン）ゴニルという人が釜山にいる時で，その人が来たら死んで［火葬は終わって］いました。金（キム）スンイムのお母（オモニ）さんが釜山にいる時。その方とふたりだけ，お義兄（シアジュボニム）さんとお義姉（ヒョンニム）さんとだけ［火葬場に］来たの。大事な骨だけいくつか拾ってクビにかけ，店に行って預けて。そのあとは私がおかしくなった。

――それがいつ？　亡くなった日が？

李：亡くなったのは49年10月です。45年，私が27年間，この手で祭祀（チェサ）をしてきました。27年間になりますが，10月25日は餅を作って私の手で祭祀をしてきました。

――陽暦ですか？

李：陰暦。

密航と収容所での日々

《2度目の密航：1949年12月》

李：うちの母方の従兄弟［金チョング］なんだけど，新聞記者をやっていて麗順事件の時に軍隊で，少し革新的な軍隊にいたので，危険だから逃げろと言うから，釜山に来て埠頭で仕事をして過ごしたんだけど，どうなったのか……。私は従姉（サチョンヌニム）だけど，自分の姉のように思ってくれて。日本から送還された時に差し入れしてくれて。

私，その後［釜山に強制送還され釈放された後］に麗水（ヨス）に［しばらくいた］。麗水で同胞と言えば［母の二番目の妹］任（イム）ヘセンが，その夫が有名な方でした。その方が「お前が生きようと思うなら何かひとつ信じなければ」。「何を信じるんですか？　信じられるものはひとつもないじゃないですか？」。「アムスガミ［牝牛神。朝鮮語の「암소（アムソ）（雌牛）」と日本語の「カミ（神）」の合成語］を信じろ」と。「アムスガミってなんですか？」［と］尋ねたら，牛にも神がいるそうです。

［任ヘセンの］息子は人民委員会委員長の金ジョンファンといって，全州（チョンジュ）で虐殺され，新聞記者をしていましたが，こんなことになって。軍隊に行ってきて，埠頭で働いて暮らしました。また，4番目の息子は，日本帝国時代に天皇のために出征し，死んでから四日目に解放になったと。革命家の家です。この方が私に，生きようと思うなら何かひとつ信じなければならないというのがアムスガミ。「アムスガミを信じれば死んだ人も生き返る［という］鬼神［のこと］ですか？」と聞くと，「分からない」と。「それは分からない」と。だったら私が信じてどうするの？

ここ［釜山］に李（イ）ビョンホといって，祖国（ウリナラ）が解放されたから旗［朝鮮国旗］を掲げたと，［在日本朝鮮人］連盟⑤-＊11）の時に旗を掲げたといって［国旗掲揚事件⑥-＊21）］，送還された［父方の親戚の］弟がいたの。その弟を釈放させるために，うちの故郷，うちの母，父の従姉（サチョンヌニム）側で姻戚にあたる人［李クァンシク］が韓国に行ったの。李（イ）クァンシクが［李ビョンホの］叔父（チャグンアボジ）さんだから。その方が私を見て，このまま置いておいたら精神

病者になると言って，私を日本へ連れて行くと。だから［1949 年 12 月に］李ビョンホが私を日本に連れて来てくれたの。

《強制送還：1950 年 12 月》

李：［1950 年 12 月に強制］*送還されたでしょう，私が。送還されて大村収容所*[⑤-＊14] *に。初めは曽根崎警察署へ。警察で 3 カ月。*

――曽根崎？

李：*はい，大阪の曽根崎警察で 3 カ月。大村収容所で 2 カ月。*

［従姉妹の「金ジョンスン」という仮名を使って 1950 年］*8 月にそこ*［大阪市住吉の兄の家］*に行って，今でこそこうして服を着込むこともできるけれど，短くて薄っぺらのスカート 1 枚履いて，それも 8 月に捕まって*[7]*。呼ばれて行ったら，はっきり言えば釈放，はっきり言わなければ送還。私は本当のこと，知ってることなんてないし，「私は米を一握り買ってからうろうろしていたら，それで引っかかって，私は*［たまたま］*引っかかっただけで，何ら罪もない」*［と言った］。

ところが［日本の警察官が］「パンパン」「パンパン」と言うのよ。「パンパン」という言葉を聞いたら，本当に人間の感情というのは恐ろしい。私はしゃべれないと言い張り，日本語も知らないと言い張っていたのに。［私は］突然ぱっと立ち上がって，「朝鮮から来た東方儀礼の国という言葉を知らないのか」と［言った］。「お前たち［捜査官］がクビに망탱이（マンテンイ）［穀物を入れる藁製の網袋］を掛けたとしても，私たちはそんなこと［パンパン＝売春］はしない。食べる物がなくて物乞いをしたとしても，こんなことはしない。私たち朝鮮女性は」と言った。そうして私は［大村収容所へ］送還されてしまった。

［大村］収容所に送還されて，うちの夫が死んだ日［命日］，10 月 25 日は，10 円のお金を借りて，それで饅頭をひとつ買い，毛布を 1 枚は敷いて，1 枚は掛けてテントの中で生き返らせた［祭祀を行った］の，収容所で。知り合いが「それ，何？」［と尋ねるので］，「ああ，今日はうちの夫の命日で，私が忘れていないから，何かしてあげなくっちゃ」と［答えた］。そうすると，そこで何人かが泣いたよ。

そうこうして［1950 年］*12 月になって送還され，釜山で取り調べが，これくらいの取り調べが。*［武装隊の容疑者として］*捕まって。12 月に釜山に到着したけれど。ふた*

7）李性好さんは 8 月15日の光復節の集会を朝鮮人が開催していたので，警察が朝鮮人の身元調査をしていたのではないかと推測している。

りを銃殺するために，*海岸に座らせられました。男性のような人と私と*［を］*銃殺*［しようとする時に］，司令官が李承晩が銃殺はするなと言ったといって止めさせた。

送還された人たちのうちでも，罪のない人は50日以上は［拘置所に］*いなかったん*です。私は女刑［女性だけの監房］に行くから，男性たちとはまた場所が違うから。私が行ったところは女刑。行ってみたら独房で，夏服を来て12月に行ったから［とても寒かった］。［監房が］山の中［にあったんです］。ほとんど歩いて［取調室へ］通いました。歩いて通いながら，私はいつも高王経を唱えながら歩いていた。そこである人が私に「あなたは生き延びるだろう」と。「高王経さえ唱えていれば，首に刃が入っても生きる」と言ったのです。

取り調べの時には服を全部脱がせます。パンツ1枚だけの格好で，ここを薪で突いて後ろ手に縄をかけて，こうやって。「本当のことを言え」と。私は「本当のことなんて何ひとつ言うことはなく，本当のことを聞きたければ，日本へ私を連れて行け」と。「米を，こうやってヤミ米をかついで歩いて，食べるものがなかったから，ヤミ米を買って歩いていたら，引っ掛かってこうなった」と。［捜査官は］私の言うことを聞き入れません。信じません。そして口に分厚い지레（チレ）［梃子棒］をかけ［棒をさるぐつわにして？］取り調べをするんですが，水をいきなりかけるじゃないですか，捜査官が。息もできなくて。鼻も塞ぎ，口も塞ぎ。3度目までそうして，4度目には力尽きて，こうして倒れて。わざと倒れたの，わざと。

こうして［私が］倒れたのを見て，そこに査察課長という人が，取り調べが行き過ぎだと［言った］。李承晩が銃殺をするなという命令が出ているので，［容疑者を拷問で］殺したら，その人たちは殺人者になるから。それを見て，私は自信がわいてきた。自信を持って，「私を調べるなら，あなたたちは権力者だから，みな飛行機に乗って［日本へも調査に］いくらでも行けるじゃないか」と。「飛行機に乗って行けばいいじゃないか」と。そう言うと，「済州のアカ（パルゲンイ）はみなあちらに送る［殺す］」と。それが日常使う言葉です。

警察から，CIC*[22]から［捜査官が］来て調査する時も，しゃべれと言った時，1週間食事をとらずに断食してやったんです。どうせ死ぬなら死んでやろう，こいつらに，「死ぬのが怖いものか。私が生きていようと，別に家族がいるわけでもないし」。1週間断食したら，こいつら怖気づいて。

CICから来ても［私は］何も言わず，ずっと知らんぷりをして，しゃべれない人のようにしていたら「これ，パンパンをしてたんじゃないか？」と言うんです。アイゴ，パンパンをしてたって。こうして捕らえられて，こんなありさまになったから，パンパンだと言うの。パンパンというのは，身体を売る人のことをパンパンと言うじゃない。

こんな目に遭っている時，私が死んだと言って泣く人もいないし，死ぬと言っても，母しかいないから，殺すなら殺せと。何が恐くて，こんな風にして生きるのかと言いました。でも，みな死んだ人たちは自分の国を守ろうと全力を尽くしたと。私は悪いことをしたと，屈したりしないと。自分の国を取り戻そうとする人たちの何が悪いんだと，そう［私が］言うから，「えい，この済州島」だと。

その時は他人の名前で行ったから。私の名前では行けない。私の名前で行けば発覚するから。えい，済州島のなにがし，全く有名になったもんだ，強い女だと。それがどうかして，知り合いが，시숙님（シスンニム）［夫の兄弟］と［の］知り合いがひとりいた。済州島にそんな強い女性がひとりいるということを聞いて，叔父（チャグンアボジ）さんが「うちの弟の嫁（チェス）」だと言うと，「それを前もって知っていたら私たちが助けたのに」と言ったとか。

そうして釈放されて日本に来た，今は。

《3度目の日本への密航：1951年1月》

――李女史，［1950年］12月に釜山に行ったじゃないですか？
李：うん。

――それでまた日本に密航してきたんですか？
李：うん，密航。

――いつ来られたんですか？
李：密航で来たのは，それは51年に来たね。

――釜山にはどれくらいおられましたか？
李：釜山には約3カ月ほどいたかな［実際は2カ月ほど。1951年1月に日本へ］。いくらもいなかったね。

――それなら，その時は釜山から密航でどこに来たのですか？　大阪に？
李：［3度目に］密航で来た時は，その時，送還された後だから，そこが対馬，そこに行って，今度は高（コ）チャンホという人に頼んで，どこかで登録［外国人登録証］⑥－＊23）をひとつ何とか用立ててくれと。それで，山で，同胞ですが，炭を焼く人の名前がひとつあると，孫（ソン）ジョンスンという。その名前を何とか［用立て］して大阪へやって来た。

私の名前は使えないの。引っ掛かったら，どこへ行っても死ぬから。

――釜山から日本のどこに行かれましたか？

李：その時もやっぱり大阪しか行くところがないでしょ。連盟の時だから[8]。

――大阪に直接来られましたか？

李：そこ［上陸地］から大阪へ来る汽車に乗り換えて来た。そこがやっぱり福岡だと思います。連盟の時だから，連盟の人たちが暑いところに来たと言って，アイスクリームを買ってくれたり，また［大阪へ］連れて行ってくれたり。

大阪に行けば，ここ森町［現在の大阪市東成区中道］だとか。同胞が集中して住むところだから生野区。今はあちこちに散らばって暮らしているけれど，［当時は朝鮮人が住むのなら］生野区。

日本での生活

《兄たちを助けて》

李：［大阪に］来て，［人びとが］私に尋ねるのが，「これからお金を稼いで暮らすつもりなのか？　どんな道を選ぶのか？」と尋ねる方がいました。金（キム）ボンユ氏という，その方は商売人で。私は「お金を稼いでも使いみちがありません。家族がいないのにお金を稼いで何になりますか？　私はこの道で生きます」と答えたの。統一するまでは，結婚もしないで一生を送るというのが私の本心だったんです。

だから仕方なく，どうやって暮らすのかといえば，チョゴリ，朝鮮のチョゴリを作った。ミシンを動かしている写真がここにあります。私と67年間一緒に暮らした方[9]（図11）。その方も私が結婚させた人です。［解放前に日本にいる時］歌も上手に歌うし，遊びも上手いと。自分の部屋に一緒に住まわせてほしいと，［紡績工場寄宿舎の？］責任者に頼んで，［私を］自分の部屋に連れてきて，娘のように連れてきて，暮らしたんです，

8）在日本朝鮮人連盟は1949年９月８日，GHQにより解散させられたため，李性好さんが３度目に日本へ密航して来た1951年１月には存在していない。ここで言う「連盟」とは，1951年１月に結成された後継団体の在日朝鮮統一民主戦線（民戦）を指すものと見られる。

9）解放前，大池橋で一緒に住んでいた朴シンチョルさんのこと。朴シンチョルさんは，解放後も日本に留まり続け，李性好さんの３度目の密航後に一緒に暮らした。その後，東京，埼玉でも李性好さんの近くに住んでいたので「67年一緒に暮らした」と認識している。

私が幼い時。

その方が家にいて，ミシンでチョゴリ，チョゴリを作って。その時は森町に行けばお婆さんたちがみなチョゴリを着て。あの，マトメ［まとめ］*23，洋服［の］マトメね，それが本業なんです，お婆さんたちの暮らしは。そんな生活をしながらこれからどんな仕事をしようかと考えて，ひとりひとり知り合っていく中で連盟の事業ができるんじゃないのか，ということで。

図11　長年の友人・朴シンチョルさん（左）と（1996年9月）

そのころ，私の兄たちがとても貧しい暮らしをしていて。その時は*鉄くずを拾いながら*生活していた時で，すぐに解放になったから。兄たちを生かそう。どうすれば兄たちを，どうやって生かすのかと考えた。「*タタミ2畳*」部屋,「*4畳半*」部屋，5人家族が暮らしている時。

来てみたら同胞たちはみな煙草巻きの生活をしている。煙草を巻きながら生活をしているの。チョゴリを売りながら，こんな生活しているのに，さっき［インタビューを始める前に］来た子が双子です。世栄（セヨン）。その双子ですが,私は幼い子を生んだこともなく，私たちは家庭生活をすることができなかったんです。2年間は山での生活だったから。人間らしい生活ができなかった。

ところでその子［世栄］が生まれた時，先にセフンが出てきた。兄嫁（オンニ）がその子を産んだ時も，私がそのミシンでチョゴリを作りながら。［妊娠して］お腹がこんな［大きい］状態だから［兄嫁は］動くことができない。［兄嫁は］もともと動作が鈍いの。全く何もしたことがない人でしょ。でも今は生きなきゃいけないから。これから子どもを産むのだから，私が［兄たちの生活を］手伝うために2カ月前から行って，そこでチョゴリを作りながら［組織の活動もしていた］。［兄嫁が］子どもを産んだ時，産婆が来て，ひとりが生まれたのだが,もうひとりいるって。私は知らないでしょ。母親はへとへとで，自分の力では［もうひとり］子を産むことができない。そこで産婆と私が母親のお腹を押して産んだのが，ほかならぬ世栄（セヨン）なの。

《総連への参加，そして離脱》

李：［東京の］巣鴨というところで［同胞が］捕まってしまった時がある。8月に。予備検束というの？　その人も祖国に韓徳銖（ハンドクス）議長*24と一緒に行ってきた人たちです。今，祖国に行って［帰って］いるのでいません。

――お名前は何と言われますか？　名前は何ですか？

李：この人の名前は高（コ）ダルミン。新村（シンチョン）の人です。高ダルミン，［李（イ）］佐九（チャグ）［4・3事件の武装隊司令官・李徳九の兄］。

――李佐九。有名な方です。

李：みんな私の友人たち。その時期，4人の天使たち［兄の子どもたち］を寝かしながら暮らし，53年になって，その時は日本共産党から，［在日本朝鮮人］連盟の時期から移って，民戦*25の時だから，昔の活動家たちは日本共産党の党員になったの。共和病院⑪-*4)に入院した人，副委員長［を］したトゥヨンという人が，今入院しているけれど，残っている人はその人だけ。みんな死にました。そうして私が当時総務，［民戦？］東成支部総務部にいて，53年に，この席で話してもいいものか分かりませんが，信じてやりました。巣鴨事件10)というのがありました。

――巣鴨？

李：巣鴨事件，それはよく知っています。私に資料も持ってきてくれました。予備検束をするといって，私たちの同胞を弾圧した時があったでしょ。予備検束と言って。

北朝鮮で最高人民会議が作られる時［1948年8月］じゃないですか？　［朝鮮民主主義人民］共和国が創建されて。その時期に日本から36名が行って来ました。36名が，行ってきた人たちが中心に［民族派が形成され］，私がそこに入っていました。

そんな関係で，総連で，最も先頭に立った人の中で，今生きている人は，みんな死んでしまったから，私しかいないでしょう。韓徳銖議長が祖国に行って最高人民委員会の称号を受けてきて11)，総連を結成しようと，3年間非合法運動をしながら。だから，韓

10）李性好さんによれば，韓徳銖たちが朝鮮総連結成へ向けて，非合法活動をするなかで，民戦主流派と先覚派（民族派）の対立があり，その中で起きた公安当局の弾圧事件を「巣鴨事件」と呼んでいるという。

11）韓徳銖が最高人民会議代議員に選出されたのは1967年，「労働英雄」の称号を与えられたのは1972年で，いずれも総連結成（1955年）からずっと後のことである。

徳銖議長などが私を先覚者だと。いつも厚遇されて。私はその時，［朝鮮総連］中央学院*[26]23期（？）で。

金石範（キムソクポム）さん［作家。済州島4・3事件を題材にした長編小説「火山島」などの作者］知ってますか？　彼が私たちの班にいました。済州の言葉しかしゃべらないんです，その方は。中身のある人間です。うちの班にいて仕事もよくでき，まじめです。彼が話す時，あの先生は必ず済州の言葉が出てくる。「われわれ済州の人間が済州の言葉を使わないでどこの言葉を使いますか？」。こういう具合ですよ。その時の総連東京都本部副委員長が金（キム）ジュヨン氏といって慶尚道，朝総連ですが。私が総責任者として中央学院に行った時，金ジュヨン氏が責任者で私が副責任者だと。だから金石範さんが，5人ずつの班の班長をしたんです。掃除する時，並大抵ではなくて，そこでまた力仕事を私がしようとして，しょっちゅう前に立つんです。そこで有名になってしまいましたよ。

これが男性たちは，許宗萬（ホ ジョンマン）*[27]知ってますか？　中央本部［中央委員会］副議長，国際副議長［国際部副局長］。私は知っている人です。性格上，ひとりひとり性格があるでしょう。その男性たちは豚などつぶして服をよく汚すんです。私たち女性たちは他のことはできないから，男性たちの服をみな洗ってあげる役割をしなくてはならない。そう言ったから，私がその指摘したんです。指摘したから，それが評価されて，きれいに洗ってアイロンをかけて，これをきれいに整えてあげた。この指示は誰がしたのかということも責任者が聞くじゃないですか。「ああ，この指示は東京本部李性好氏が指摘してやってくれた」と言うので，それが評価された。

私は88年生きてきたが，どこでだって人をいじめたことはありません。［総連を］辞める前，「錦水苑（クムスウォン）」という*朝鮮焼肉，三河島*の駅前で［会食を］しました。［民族団体で］15年間活動しました。［総連結成の］8年記念にメダルが8個しか出ないのに，女性は私しかいないでしょ，日本全国的にメダルは。またそのメダルは，自分にくれないで私にやったといって，またあれこれ騒ぎたてて［言う人たちがいるので，組織が嫌になった］。それで私が辞めたのが正確に65年でした。

《再婚》

李：65年に［総連を］辞めて，1年間暮らしてみると，人が本当に，自分の事業から去ると本当にわびしいものです。いくらもお金は必要ないです。［東京・荒川の］三ノ輪病院って知っていますか？　三ノ輪病院と言えば有名です。そこの梁（ヤン）博士がうちの兄と同窓なの。同窓生だから自分の妹みたいに私のことを思ってくれる方ですが，苦労して苦

労して私たち［在日朝鮮人］の教育に協力してくれた人なのですが，その夫人が肝臓で３年間苦しんで，その病院で死んでしまった。［ちょうどそのころ，近くにいた］私が［総連の仕事を］辞めて，１年ぐらいは休んでいました。自分の事業はあるけれど，事業は必要ないの。自分のしたいことをして辞めたので。いざ，本当に自分の仕事を辞めた時，「世の中でひとりで人生を生きるのか，また再婚する考えでもあるのか？」と私に尋ねました，梁博士が。

私は統一するまでは，ひとりで生きる予定で今まで生きてきたのに，私がこんな風になったのは，それなりの事情があったじゃないですか？　「［あなたが］してきたことはみな知っている。知っているから，人らしく生きるため苦労したついでに，もっと苦労を重ねて，もっと人らしく生きなさい」と。「再婚して私の立場も少し助けて下さい」と，［梁博士が］そんな話をしました。

その梁博士が，梁（ヤン）スンホという，梁博士の名前が［スンホ］。狭才（ヒョプチェ）の人ですが，翰林。そこのどこかの誰かの家で，家族が多くて非常に困っていると。その家の５人兄妹を誰が育てるのか。誰が食事の世話をして，子どもたちを将来，一人前にしてやるのか，とても心配しているけれど，［梁博士が］「性好だったら何とかできるんじゃないか」と聞いたわけ。そこで「そうですか。それじゃあ私も考えてみます」と答えた。

社会革命はできなくなったから，家庭革命でも……〈一同：笑い〉。家庭革命でもしなければと。そうでしょ？　お金も稼いだら，使ってこそお金の価値があるもので。お金も使う者がいないと，どこに使うんですか？　日本で一番の金持ちも，お金をたくさん稼いだのに死んだら，*どこの馬の骨か分からない者が，みな食い物にしちゃったでしょ。お金なんてそんなもんですよ。*梁博士がいつも私にソウダン［相談］するんです。そして自分が病院を切り盛りするのだけど。荒川の学校，会館に，本当に力の及ぶ限り手伝った。

それで，世間は全くむなしいものだと，私ひとり感じて，ああ，革命事業ができない代わりに家庭革命でも一度やってみるかと思ったのが，５兄妹の子持ち［の男性］。その時のお金でおよそ1300万円の借金があるという。ゴム工場を経営した時，お金を受け取ることは知らず，支払いにはみな利子が付いても支払わなければならぬ。そんな人です。くそまじめでした。この人は心のきれいな人で，生かすならこんな人を生かさないと，と思いました。

その子どもたちを私の手で育てるようになって，みなよく育った。朝大［朝鮮大学校］⑥－＊31)に行った。うちの子どもたち，私が育てた子どもたちはとても頭がいいんです。高校の先生もいて，［その］夫が今，朝大の秦（チン）グォンス教授。そしてその子どもがチャンギ，

ソンギ。朝鮮大学を出て，また東京大学に入って，今は月給生活をしながら働いている。ここに来てから毎年小遣いを送ってくれます。その子たちが。

それからソンギという子。今回［大阪に］寄りましたが，神戸に行く途中に立ち寄ったと。その子は，金萬有（キムマンユ）氏が共和国で病院も建てて，上野にも病院［西新井病院］*28 を建てて，また［ソンギに］奨学金をくれた，その子に。ここに写真も，私と写った写真もありますが。今回また2万円を送って来ました，正月に。どうしてこんなに送ってくるかって？　お祖母さん（ハルモニ）に長生きして下さいと送るんだと。私の苦労も今になって報われるなあと感じているんです。自分もそれなりに生きられるんだなあ，と思う。人は苦労しなければ他人の苦労も分からないし，自分が苦労してみて初めて［他人の］苦労が分かるものです。

《53年ぶりに済州島へ》

——済州にはいつ行って来られましたか？

李：1984年7月だったか，とても暑い時。これは，私が84年に，53年ぶりに一度済州島に行ってきた写真（図12）です。

図12　済州島翰林邑大林里の自宅（1990年6月）

——53年ぶりに？

李：53年ぶりに。［済州島の自宅写真を指して］生まれた家はとても広いんです。翰林面大林里（テリム）。

——この家には今誰が住んでますか？

李：うちの弟。死んでしまったけれど。男の子がいないから，男の子ひとり得ようと［何度も］妻を得ましたが，死んでしまった。ここに4・3事件の責任者，副責任者の方がひとりいらっしゃるので。

——どなたですか？

李：この人が翰林面の副委員長，翰林面の副面長であり南労党翰林面の責任者でした。だけど［すぐ下の弟である金ハンソクが］祖国［朝鮮民主主義人民共和国］に約10年前に帰って亡くなりました。日本に下の息子が元気で。

――お名前は？

李：翰林面，梁（ヤン）ソンイク。あの，一期の済農出身です。この人が翰林面副面長。私とは何寸［親等］かの間柄で，私を叔母さん（サムチュン）と呼ぶ関係で。うちの母（オモニ）がイム氏だから，私たち［大林里］親睦会の会長をやったでしょ。とてもおとなしくて。「オバサン［叔母さん］，どうして男に生まれなかったの？」［などと言って］。みんな死んでしまった。

《老後の生活のために大阪へ》

――大阪にはいつ来られましたか？

李：こちら［大阪］の親戚の子らが，自分の親より［私に］よくしてくれて，ひとりっきりで死ぬのはいけないと。大阪に親戚も多いのに，どうしてひとりで寂しく暮らすんだと言うもんだから，今年に入ってこちらにやってきたんです。

――2006年に来られたんですか？

李：2006年の9月26日にこちらに来ました。来てみたら，話し相手ひとりいなくてね。話し友だちがひとりもいない。政治については考えもせず，歳月がどう流れるかも全く考えずに暮らしてるの。テレビだけ見てても環境が全く変わったことが分かる。でも話せないでしょう。話しても通じないし。どうにかして話せる人がひとりいたらというのが望みなんだけど，うまくいかない。いつもひとりなの。

　そこで，ひとりで新聞を見ながら，歳月がどんなふうに移っていくのか眺めて。新聞を通じて，広い視野で世の中を見ることができるでしょ。自分の住んでいる日本だけじゃなく，世の中は変わるんだということが分かるから。ああ，そう，長生きした甲斐あって，あれこれ分かるもんだなあ，そんな感じです。だから，生活するには一番気楽な立場ですよね。今まで苦労ばかり，私もいろいろ苦労しました。

　私に朝鮮大学に行って，4・3事件についての話を若い学生たちに講義してほしいと言われましたが，その時は心筋梗塞で多くは話せない時だった。そしてあれこれしているうちに，ここに来ることになって。ここで，テレビで，話しながら，［私が］生きてきたものをアルバムにしたんだけど，全部，朝鮮大学に持って行ってしまった。

――その資料は朝鮮大学にあるんですか？

李：朝鮮大学にあります，資料が。20年間の東京荒川での生活。幼いころのとか。ここにもたくさんありますよ。

＊本研究は科学研究費補助金（課題番号 24530639）の助成を受けたものである。

【用語解説】

＊17　소중기（ソジュンギ）

소중의（ソジュンイ），소중이（ソジュンイ）などとも言う。木綿，麻などで作られた伝統的な済州島の女性の下着。肩ひもが片側のみついている。幅に余裕があり，着脱が楽で妊娠など体型の変化に対応しやすい利点がある。素もぐりの海女が使用することも多かった。

＊18　뚝딱婆さん（トクタクハルモニ）

「菩薩（ポサル）」は女性の占い師の尊称として用いられる。男性の場合は「法師（ポプサ）」である。굿（クッ）（朝鮮の伝統的なシャーマニズムの儀礼）を行う巫堂（ムーダン）（巫女。済州島では「神房（シンバン）」という）とは異なり，占いを主とする。ここでは洙源里に住んでいた「菩薩」を村の人が「トクタク婆さん」と呼んでいたということであろう。

＊19　高王経

正式には「仏説高王観世音経」または「高王観世音真経」という。中国・東魏の天平年間（534 ～ 537）に，漢文に筆写され流布した偽経。内容は観世音菩薩をはじめとする諸仏，諸菩薩への帰依と，観世音菩薩の権能の列挙で占められる。千回唱えれば罪が消えると伝えられた。

＊20　朝鮮民主女性同盟（女盟）

朝鮮労働党の外郭女性団体。北朝鮮民主女性同盟（1945 年 11 月創立）と南側の女性運動諸団体が，1951 年 1 月，南北朝鮮女性同盟合同中央委員会を開催して合同し「朝鮮民主女性同盟」となった。加入者は他の団体に属さない 31 ～ 55 歳の一般女性で，女性の政治思想学習と人的資源としての活用のため，多くの事業を繰り広げている。

＊21　済州島の女性運動団体

解放直後の南朝鮮では，8 月 16 日に左右の女性運動家が建国婦女同盟を組織したが，右派はすぐに脱退した。同年 12 月に左派の結集体として朝鮮婦女総同盟が組織され，46 年 2 月に結成された民主主義民族戦線に参加した。米軍政が左翼運動を弾圧すると，47 年 2 月に組織を改編して南朝鮮民主女性同盟と改称し，合法活動を展開したが，左翼運動

が非合法化されるにしたがい，次第に衰退した。

済州島では，47 年 1 月 25 日に済州道婦女同盟が結成されたが，李性好さんのお話にもあるように，それ以前から邑・面など地域単位で婦人会が組織されており，婦女同盟はこれらを改編して全島的に組織したものであった。南労党が示した「一夫一婦制の確立」「男性と同じように教育を受けられる」などのビジョンに共感した女性たちの組織は，党の強い支持基盤であった（양정심（ヤンジョンシム）〔梁正心〕『제주 4・3 항쟁：저항과 아픔의 역사〔済州 4・3 抗争：抵抗と痛みの歴史〕』선인（ソニン），2008 年，57 ～ 58 頁）。

＊ 22　CIC（Counter Intelligence Corps）

米軍内の情報部隊で，「対敵諜報部隊」などと訳される。日本占領にあたっては，GHQ 下部組織の民間諜報局（CIS：Counter Intelligence Section）の一部として各地域に支隊をおき，情報収集と占領に対抗する活動の取り締まりを日本の警察とともにおこなった。

＊ 23　まとめ

洋服の縫製過程のうち，袖付け，ボタン留めなど，仕上げの段階での手作業のことをさす。内職でもでき，歩合制であったため家の中での作業が可能で，朝鮮語も日本語も十分に学ぶ機会のなかった在日朝鮮人女性にとって，貴重な収入源のひとつであった。

＊ 24　韓徳銖

1907 年，慶尚北道生まれ。1927 年に声楽家を目指して来日。日本大学中退後，労働運動に身を投じる。1934 年には熱海線トンネル工事の争議に加わり逮捕，2 年間投獄された。

解放後は在日本朝鮮人連盟（朝連）に参加し，神奈川県本部委員長，中央本部総局長などを歴任。在日朝鮮統一民主戦線（民戦）時代には，朝鮮民主主義人民共和国との連携を重視する「民族派」の中心として，在日朝鮮人運動の路線転換を主張し，在日本朝鮮人総連合会（総連）結成の立役者となった。

1955 年 5 月の総連結成大会では 6 名の議長団の 1 人に選出される。1958 年 5 月の第 4 回大会で議長・副議長制が導入されると，議長となって権力を集中させ，以後 2001 年に死去するまでその職にあった。

1967 年に朝鮮民主主義人民共和国の最高人民会議代議員に選出され，1972 年には「労働英雄」の称号を受ける。1994 年 7 月の金日成主席死去の時には国家葬儀委員（序列 4 位）として平壌での葬儀に参列した。

＊25　在日朝鮮統一民主戦線（民戦）

在日本朝鮮人連盟（朝連）が1949年9月に日本政府によって強制解散させられた後，その後継団体として1951年1月9日に結成された統一戦線組織。当時，実力抗争による革命路線を進めていた日本共産党の強い影響下にあった。在日朝鮮人を日本の少数民族と規定する日本共産党民族対策部の影響下で，祖国の完全な統一・独立とあわせて，日本人民との共同闘争をも標榜した。しかし日本革命への直接関与を批判し，朝鮮民主主義人民共和国との連携を重視すべきという「民族派」の主張が次第に優勢となり，在日朝鮮人を「共和国の海外公民」とする南日外相の声明（1954年10月）などもこの動きを後押ししたことで，1955年5月に解散，在日本朝鮮人総連合会（総連）の結成に至った。

なお李性好さんご本人は団体名を「民全」と記されたが，このように略記される団体は当時見当たらないため，文脈上から発音が同じである「民戦」を指すと判断した。

＊26　朝鮮総連中央学院

朝鮮総連の幹部を養成する教育研修機関として1955年8月に創立された。八王子市に本校が，東大阪市に近畿分校が設置されていた。

＊27　許宗萬（ホ ジョンマン）

現（第3代）朝鮮総連議長。1935年（1931年とも），慶尚南道生まれ。朝鮮総連中央委員会国際部副局長などを経て，1986年中央委員会副議長，1993年責任副議長，2012年議長となる。金正日国防委員長からの信任があつく，2001年の韓徳銖当時議長の死亡後，徐萬述が議長となるが，実質的には許宗萬が第一人者であったといわれる。1998年朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議代議員となる。

＊28　金萬有（キムマン ユ）と西新井病院

金萬有は1914年済州島生まれの医師。少年期から独立運動に参加し，31年政治犯として投獄される。36年渡日し，41年東京医学専門学校卒業して東京荒川に医院を開く。1945年在日朝鮮人連盟結成に参加し，中央総本部常務委員となる。1953年に西新井病院を創立し，都内有数の医療機関へと発展させた。1977年朝鮮人科学者を支援する金萬有科学振興会を創設，また1986年平壌に金萬有総合病院を創立する。2005年死去。